

スマレジ

**第14期
決算説明会資料
FY2019**

2018.5.1～2019.4.30

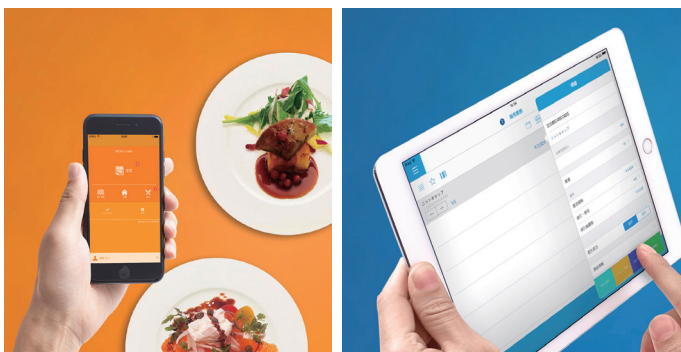
**Presentation
Material**

株式会社スマレジ 証券コード：4431

P3	事業の説明
P6	2019年4月期 決算概要
P20	事業の状況
P32	2020年4月期 業績の見通し
P36	今後の展望

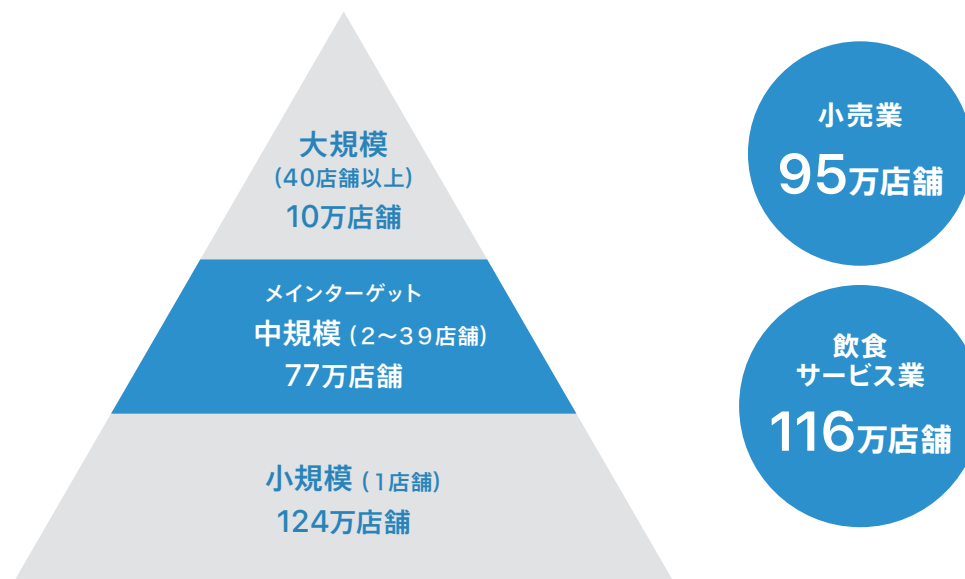
事業の説明

ABOUT SMAREGI



高機能クラウド型 POS レジ

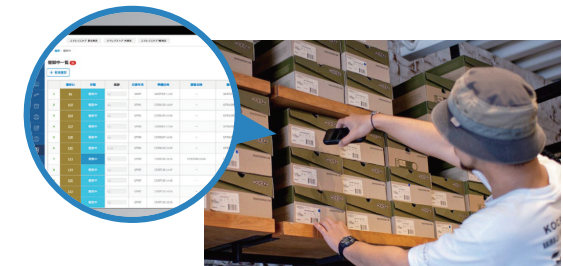
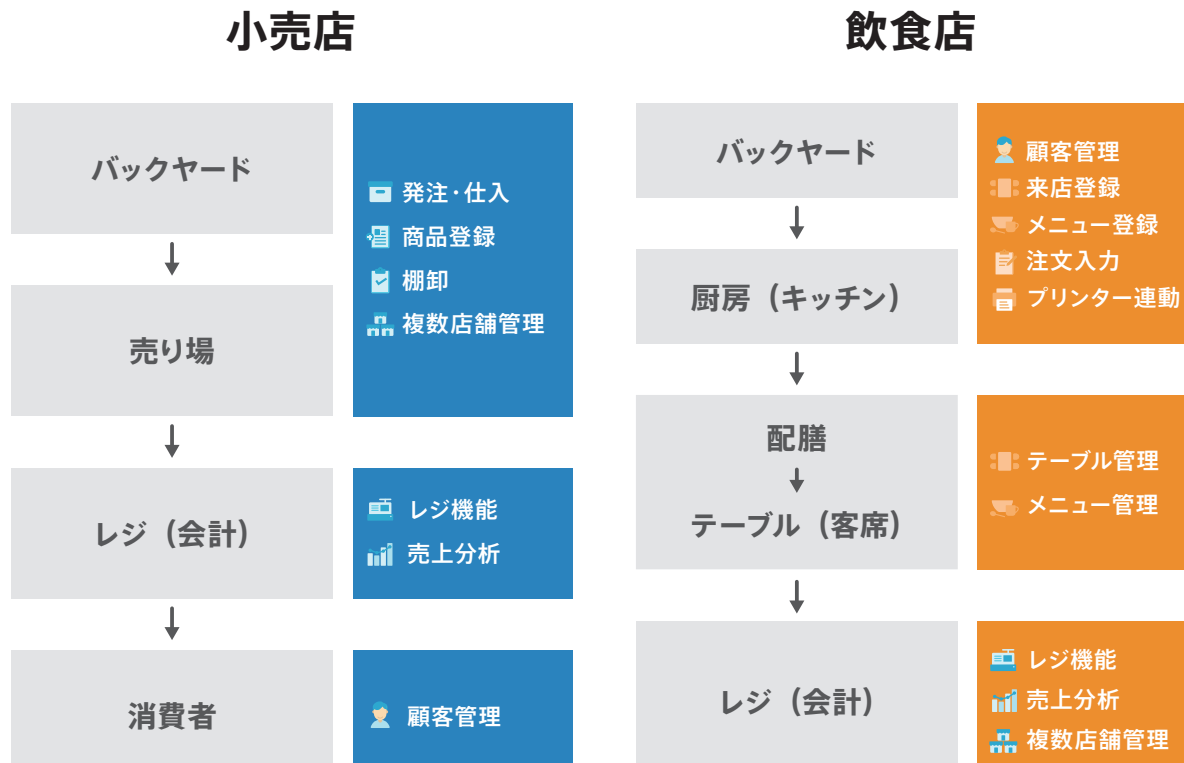
スマレジは、モバイル POS と呼ばれるクラウド型 POS レジ システムです。基本レジ機能の他、リアルタイム売上分析や高度な在庫管理など、アパレルを中心とした小売業や飲食業、サービス業のニーズに応える多くの機能を持ち、従来型 POS レジシステムの枠を超えた、クラウドベースの新しい POS レジ システムです。スマレジは、インターネットとテクノロジーやデザインの活用により、店舗運営の効率化を実現し、蓄積され続ける販売データを中心とした販売データのプラットフォームを目指します。



経済産業省・総務省「平成28年経済センサス」の調査結果を基に当社作成。企業の従業者数別データを基に1店舗あたりの従業者数を7.9人として従業者別の店舗数を推計しています。(小売業の1店舗あたりの従業者数：7.9人)
※コンビニエンスストア約5万店舗を省いています。

スマレジの機能

レジ機能だけでなく、小売店や飲食店の業務や管理に必要な機能を提供
業務効率化と「売上分析」や「顧客管理」など、データ分析による競争力強化に貢献



2019年4月期 決算概要

FY2019 2018.5~2019.4

- レジ業界において**モバイルPOSレジのシェアが伸長**、消費税増税に伴う**軽減税率への対応も追い風**
- 売上高は**前期比141.9%**の19億7千6百万円と大きく成長し、業績見通し107.5%で着地。
- 営業利益は**前期比136.1%**の4億3千1百万円と大きく成長し、業績見通し109.1%で着地。
- **5期連続増収と3期連続増益**を達成
- 公募増資を達成、現預金が大幅に増加。**自己資本比率も85.4%**へ上昇

通期業績ハイライト

2019年4月期 決算概要

8

(百万円)	2018年4月期	2019年4月期			
	実績	実績	予想	達成率	前期比
売上高	1,393	1,976	1,838	107.5%	141.9%
営業利益	317	431	395	109.1%	136.1%
経常利益	316	408	372	109.7%	129.1%
当期純利益	218	293	258	113.6%	134.1%

百万円未満を切り捨てて表示しています。

貸借対照表

2019年4月期 決算概要

9

(百万円)	2018年4月期	2019年4月期	前期比	
			増減額	増減率
流動資産	549	2,921	2,372	432.1%
うち現預金	428	2,721	2,293	535.7%
固定資産	245	320	75	30.6%
資産合計	795	3,242	2,447	307.8%
流動負債	276	423	147	53.3%
固定負債	21	49	28	133.3%
負債合計	297	472	175	58.9%
純資産合計	497	2,769	2,272	457.1%
負債・純資産合計	795	3,242	2,447	307.8%

損益計算書

2019年4月期 決算概要

10

(百万円)	2018年4月期		2019年4月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	1,393	100.0%	1,976	100.0%	583	41.9%
売上原価	559	40.1%	825	41.8%	266	47.6%
売上総利益	834	59.9%	1,150	58.2%	316	37.9%
販売費及び 一般管理費	517	37.1%	718	36.3%	201	38.9%
営業利益	317	22.8%	431	21.8%	114	36.1%
経常利益	316	22.7%	408	20.6%	92	29.1%
当期純利益	218	15.7%	293	14.8%	75	34.1%

キャッシュフロー計算書

2019年4月期 決算概要

11

(百万円)	2018年4月期 (連結)	2019年4月期 (単体)	前期比	
			増減額	増減率
営業活動による キャッシュフロー	325	371	46	14.2%
投資活動による キャッシュフロー	△137	△105	32	-
財務活動による キャッシュフロー	△130	2,026	2,156	-
現金及び現金同等物の 期末残高	429	2,721	2,292	534.3%

2018年4月期は単体でのキャッシュフロー計算書は作成していないため、連結での数値を記載し比較しております。

四半期 損益計算書

2019年4月期 決算概要

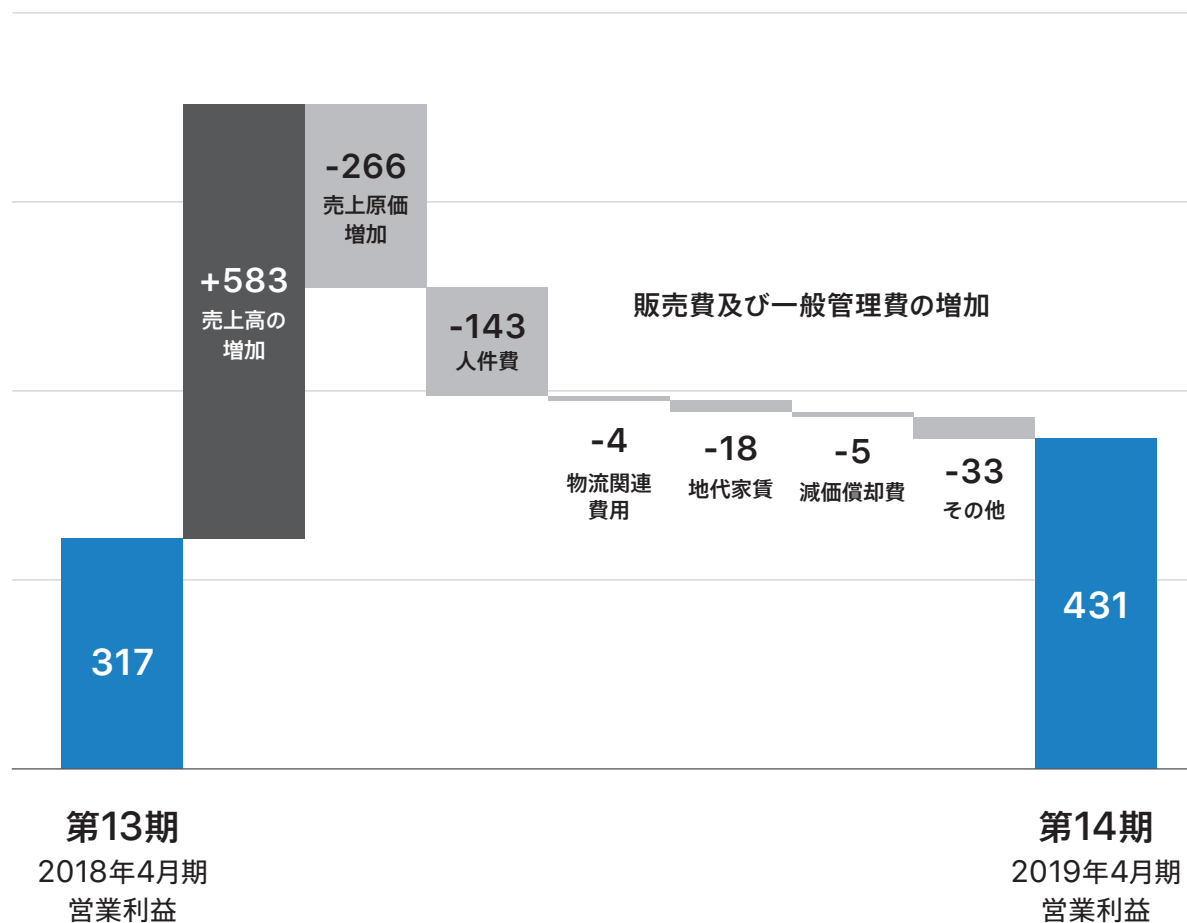
12

(百万円)	2019年4月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	401	474	479	621
売上原価	164	201	190	269
売上総利益	236	272	289	351
販売費及び 一般管理費	169	163	166	219
営業利益	66	109	123	132
経常利益	66	109	115	117
当期純利益	48	76	79	89

営業利益の増減要因分析

サブスクリプションモデルによるストック売上の増加

(百万円)



売上高の増加

- 有料契約の増加 (有料店舗率が向上)
- 解約率の低さによるストック売上の増加
- 軽減税率によるレジ入れ替え需要の増加

売上原価の増加

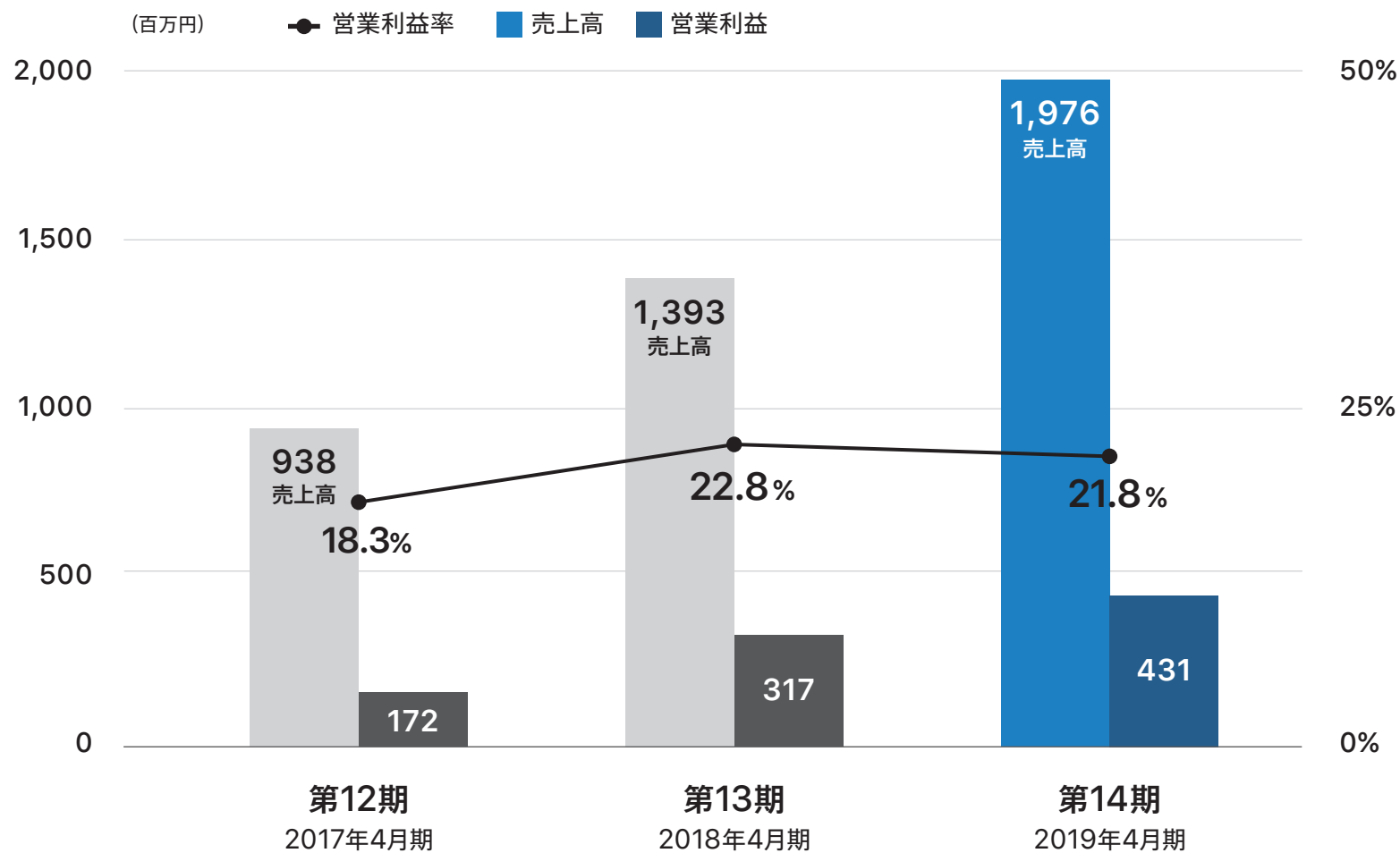
- 売上増加に伴うサーバー費用の増加
- 人員増加による人件費の増加

販売費及び一般管理費の増加

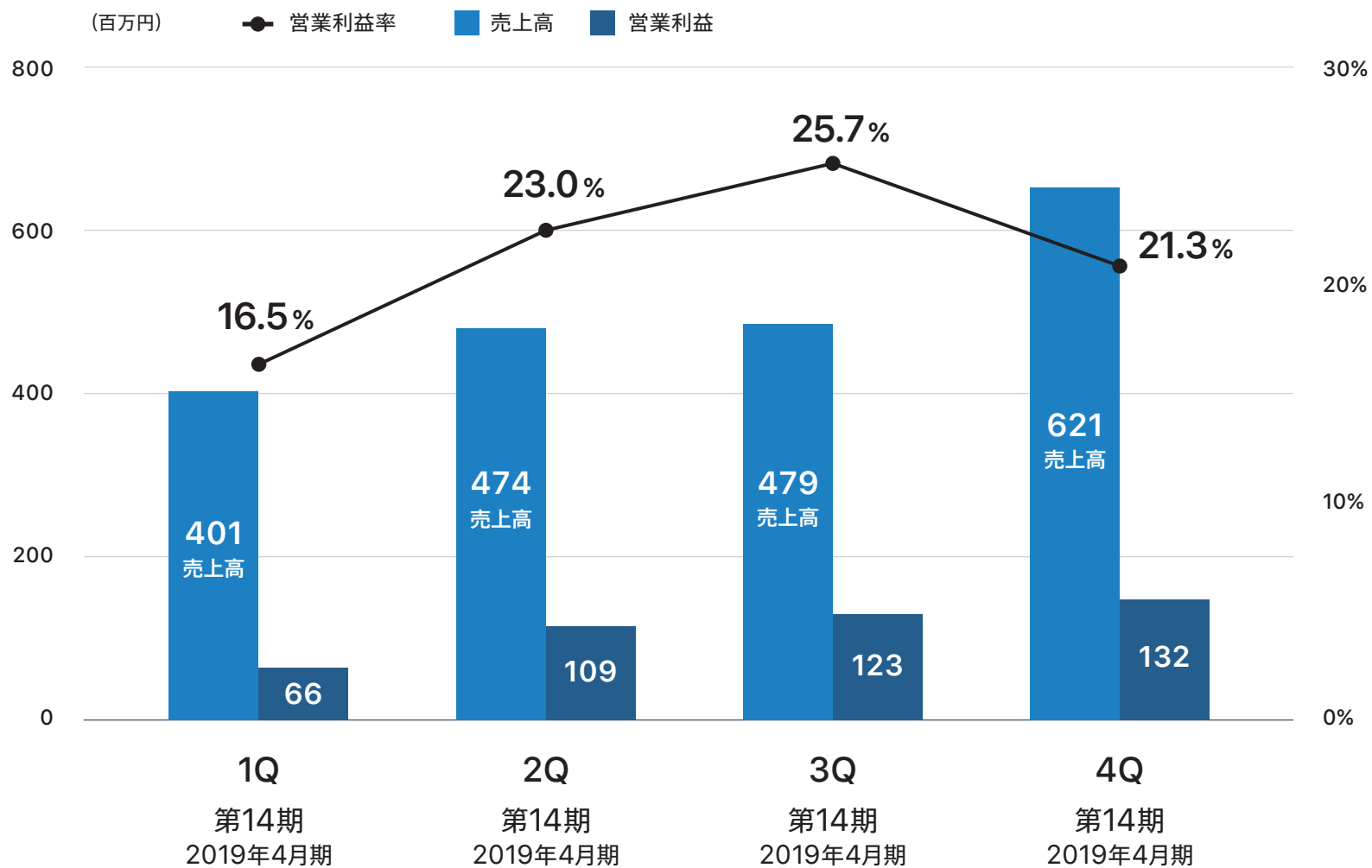
- 役員、従業員の増加 (66名→86名) に伴う人件費及び移動交通費の増加
- 大阪本社の移転による家賃や減価償却費の増加
- 売上増加に伴う物流関連費用の増加

売上高・営業利益・営業利益率の推移

前期比売上高141.9%、営業利益136%、每期130%以上の高い成長を継続



四半期売上高・営業利益・営業利益率の推移



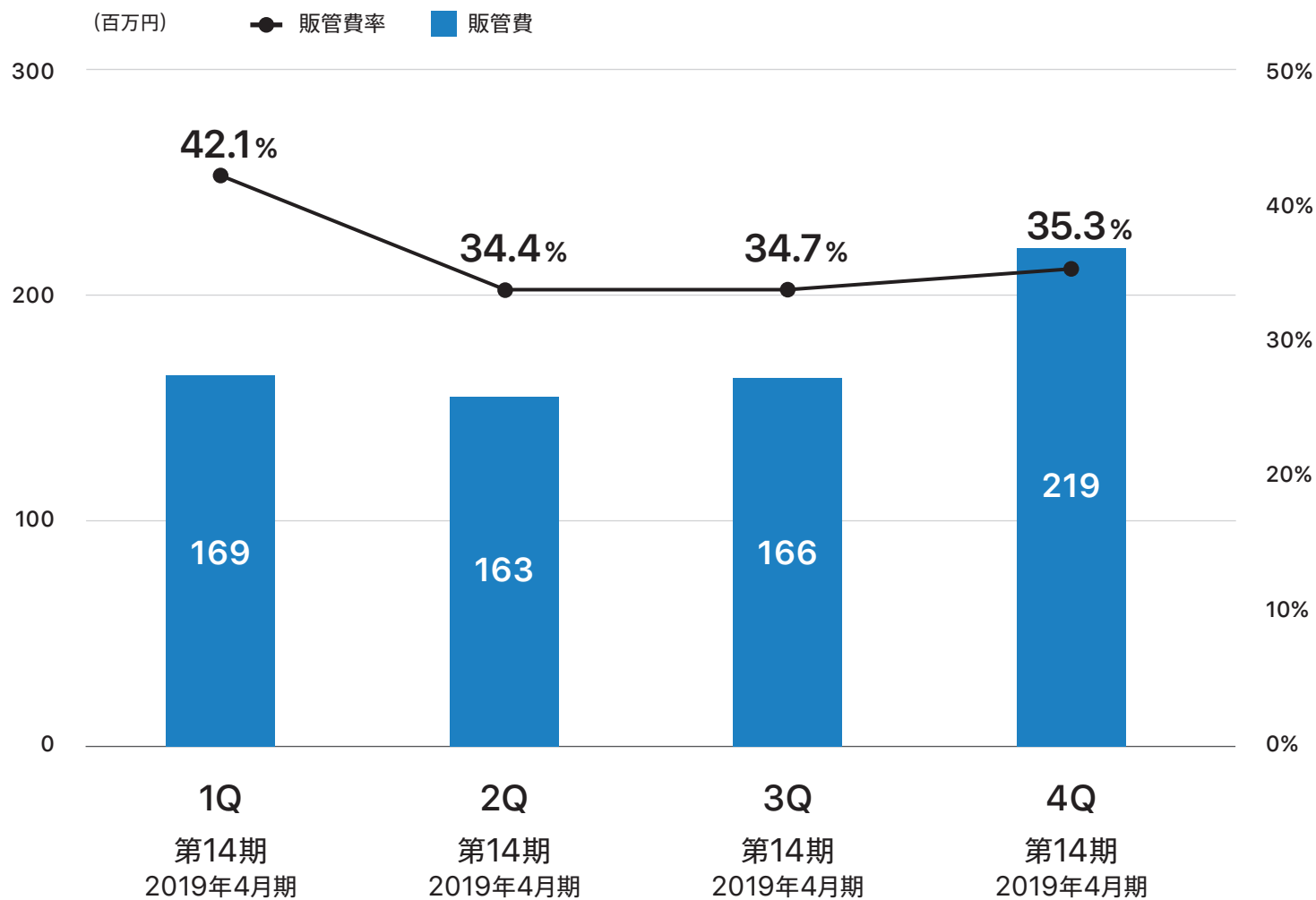
販売費及び一般管理費の内訳

2019年4月期 決算概要

16

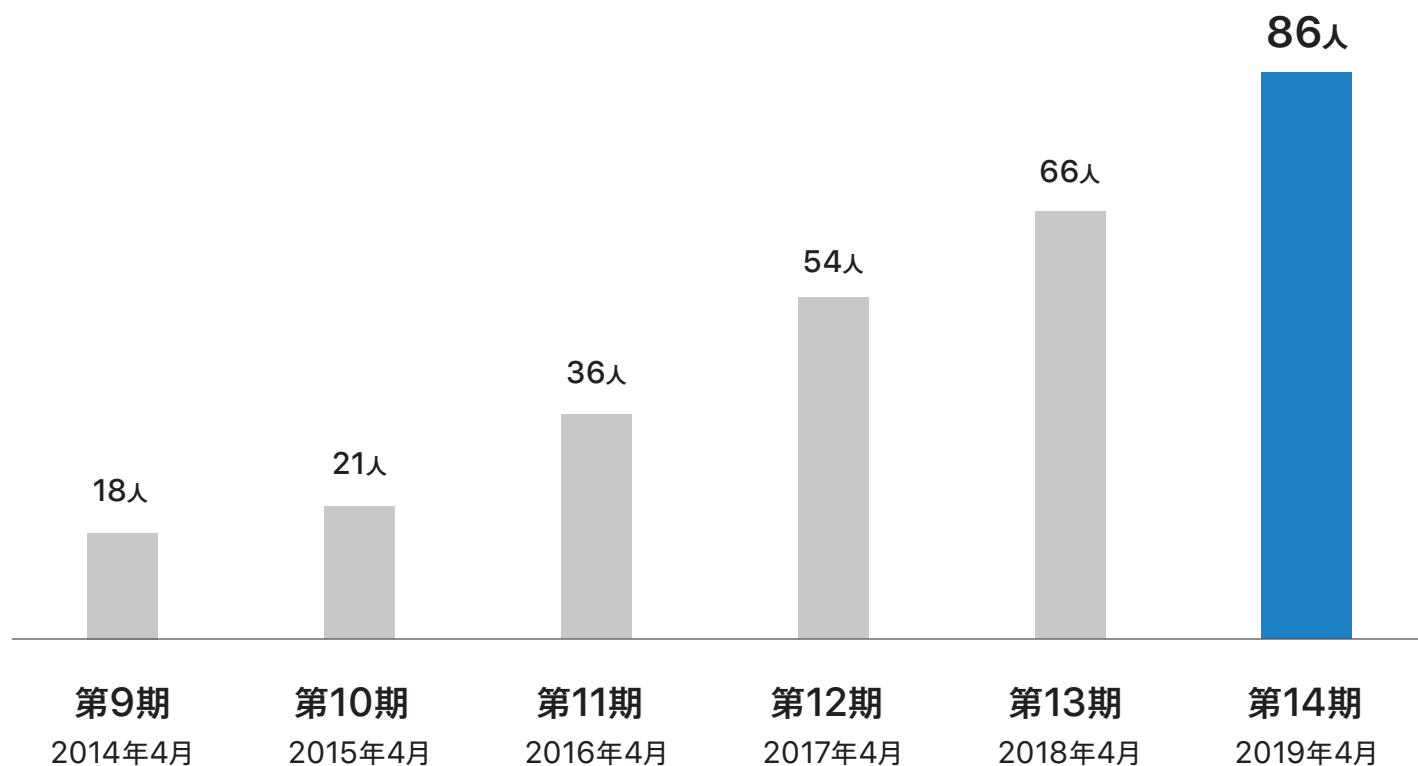
(百万円)	2018年4月期	2019年4月期	前期比	
			増減額	増減率
人件費	302	445	143	47.4%
物流関連費用	15	19	4	23.2%
宣伝広告費	15	18	3	22.4%
地代家賃	47	65	18	38.3%
減価償却費	13	18	5	38.5%
その他	124	152	28	22.6%
合計	517	718	201	38.9%

販売費及び一般管理費の四半期推移



社員数の推移

前期比20人増、平均年齢32.2歳、平均勤続年数2年6ヶ月



当社では、経営成績及び財政状態を勘案して、株主への利益配当を実現することを基本方針としております。しかしながら、当社は成長過程にあるため、将来の事業展開と財務体質の強化に必要な内部留保の確保を優先し、創業以来無配としてまいりました。

当事業年度においても、引き続き当社が成長過程にあると認識していることから、今後の事業拡大のための新規投資等に資金を充当するため、内部留保の確保を優先し、無配とさせていただきます。

事業の状況

BUSINESS SUMMARY



- 2018/6
 - 本社、大阪ショールームの移転
 - ウェイターBOXの提供開始
 - 2018/7
 - OBCのクラウド型会計システム「勘定奉行クラウド API version」と連携
 - 2018/10
 - Hameeが提供するクラウド型ECプラットフォーム「ネクストエンジン」と連携
 - 2019/2
 - 東証マザーズ上場
 - スマレジ・テーブルオーダーの提供開始
 - 2019/3
 - 主要6ブランドのコード決済に対応
-
- 2019/4
 - 登録店舗数が65,000店舗を突破
 - ヤマダ電機に「スマレジカウンター」を開設 (全国12店舗)

ユーザーからの要望や新機能の追加など、合計92回のアップデートを実施



スマレジ

- ・免税帳票がスムーズに印刷可能に
- ・コード決済に対応 (QRコード、バーコード)
- ・販売機能のアップデート



スマレジ・ウェイター

- ・ウェイター BOXの提供開始
- ・ウェイター webAPIバージョン2
- ・テーブルオーダーの提供開始



スマレジ・タイムカード

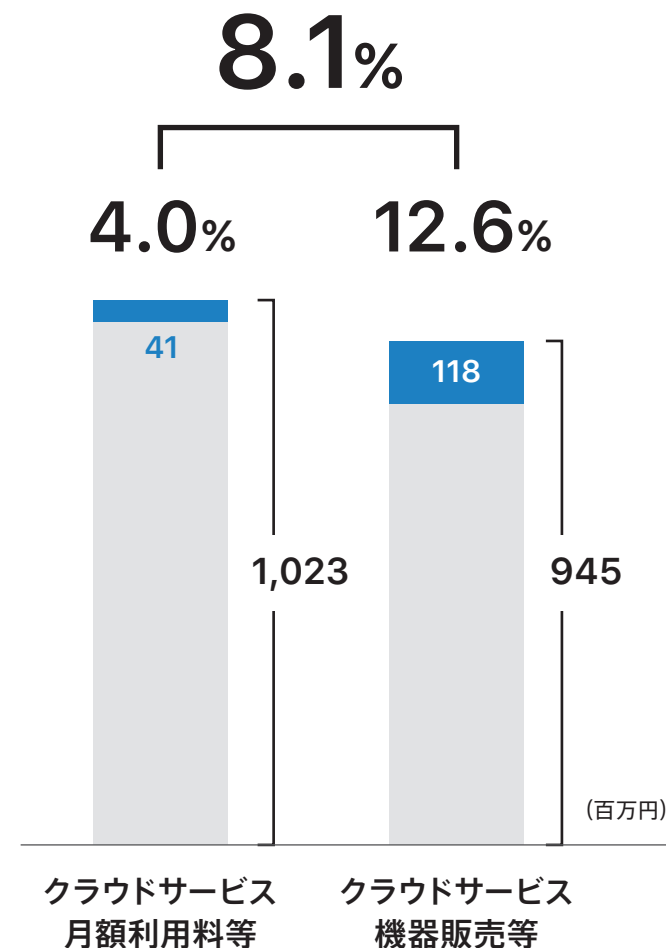
- ・働き方改革関連法案に対応!
- ・ワークフロー自由設定、年末調整、有給休暇の取得義務に対応

2019年10月の消費増税に伴う軽減税率への対応需要が増加
14期の当社業績に与えた影響は8.1%と推計

ポイント

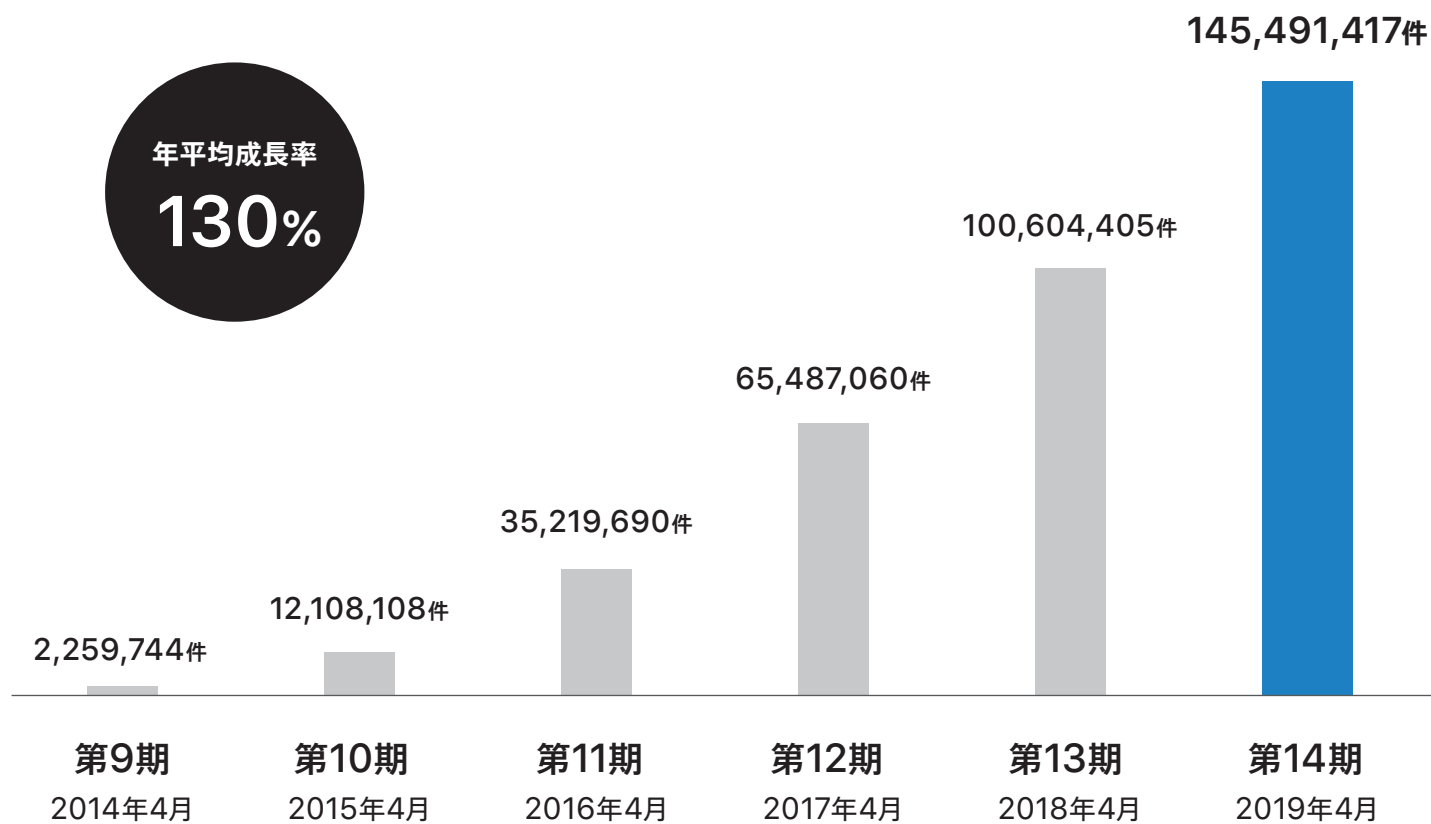
- 補助金申請ではなく、補助金申請の意思表示をした顧客が集計対象
- 補助金がなくてもPOSレジの導入や入れ替えを希望する顧客は存在する
- 軽減税率によるレジの入れ替え需要がモバイルPOSの普及を加速している

今期も需要は続くと見られるが、増税が延期になったとしても、当社にとっては依然として追い風であることに変わりはありません。



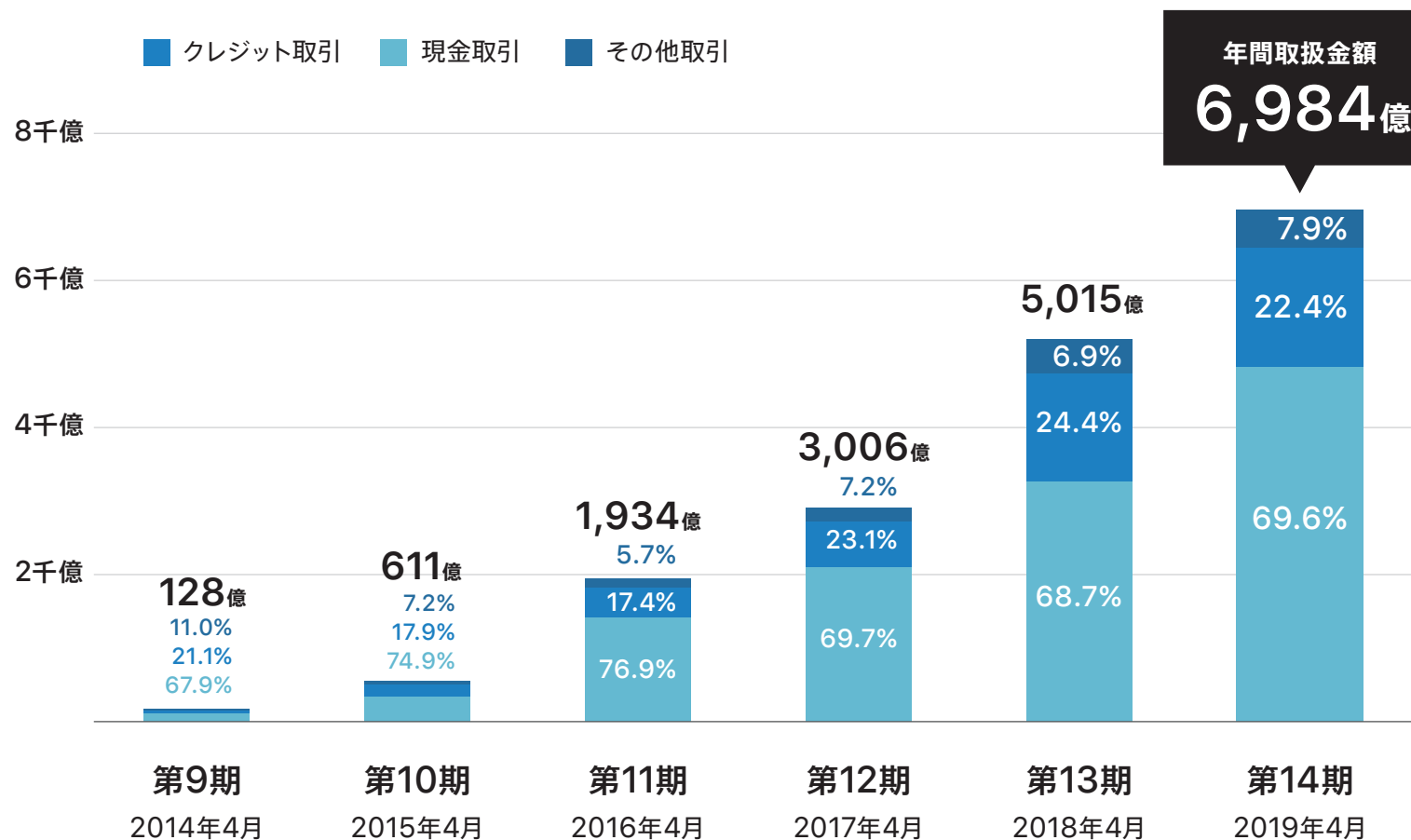
取引数の推移

14期は、前期比44.6%増の約1.5億件の取引を処理



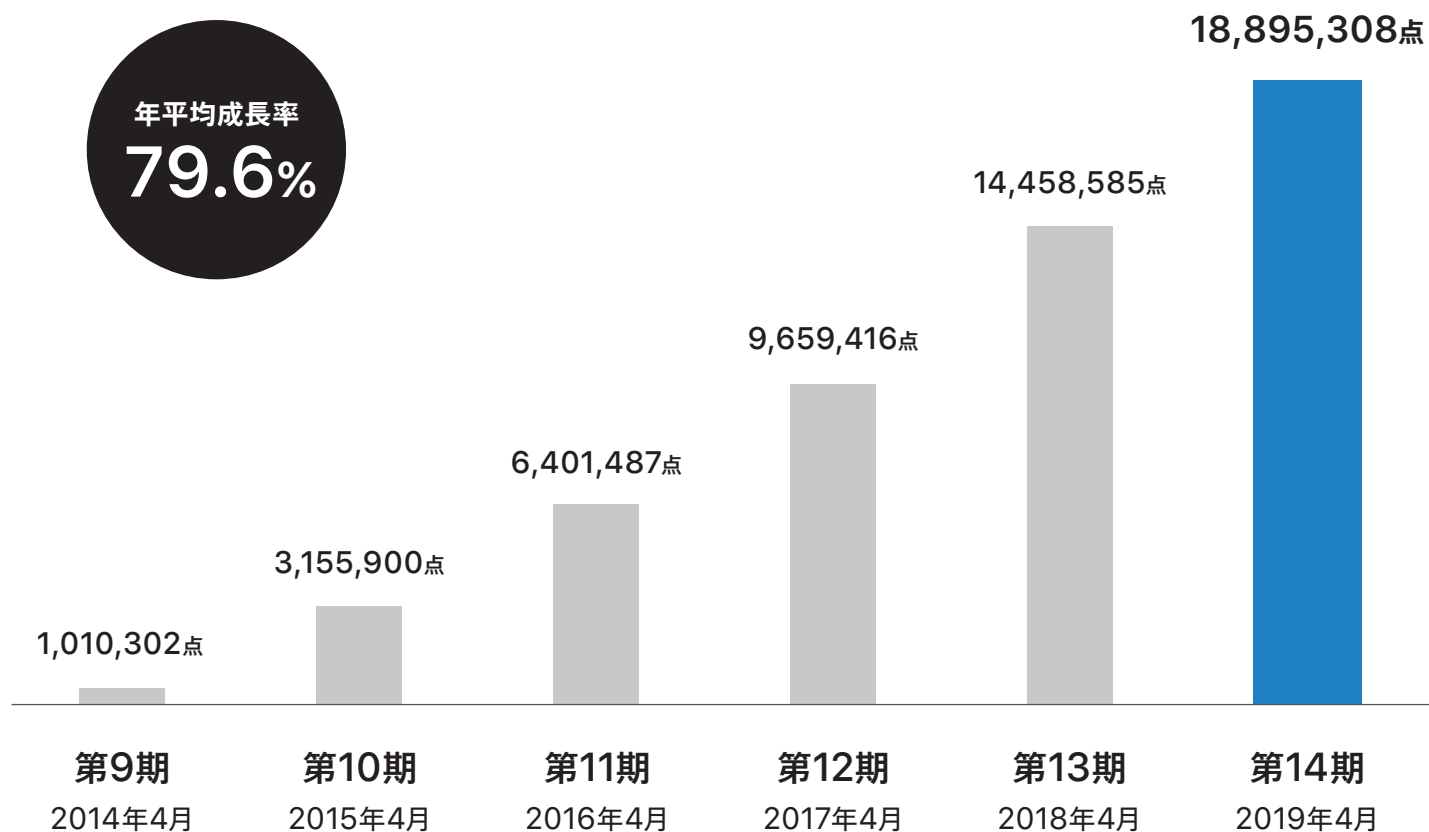
取扱金額の推移

前期比39.3%増、キャッシュレス率は横ばい。



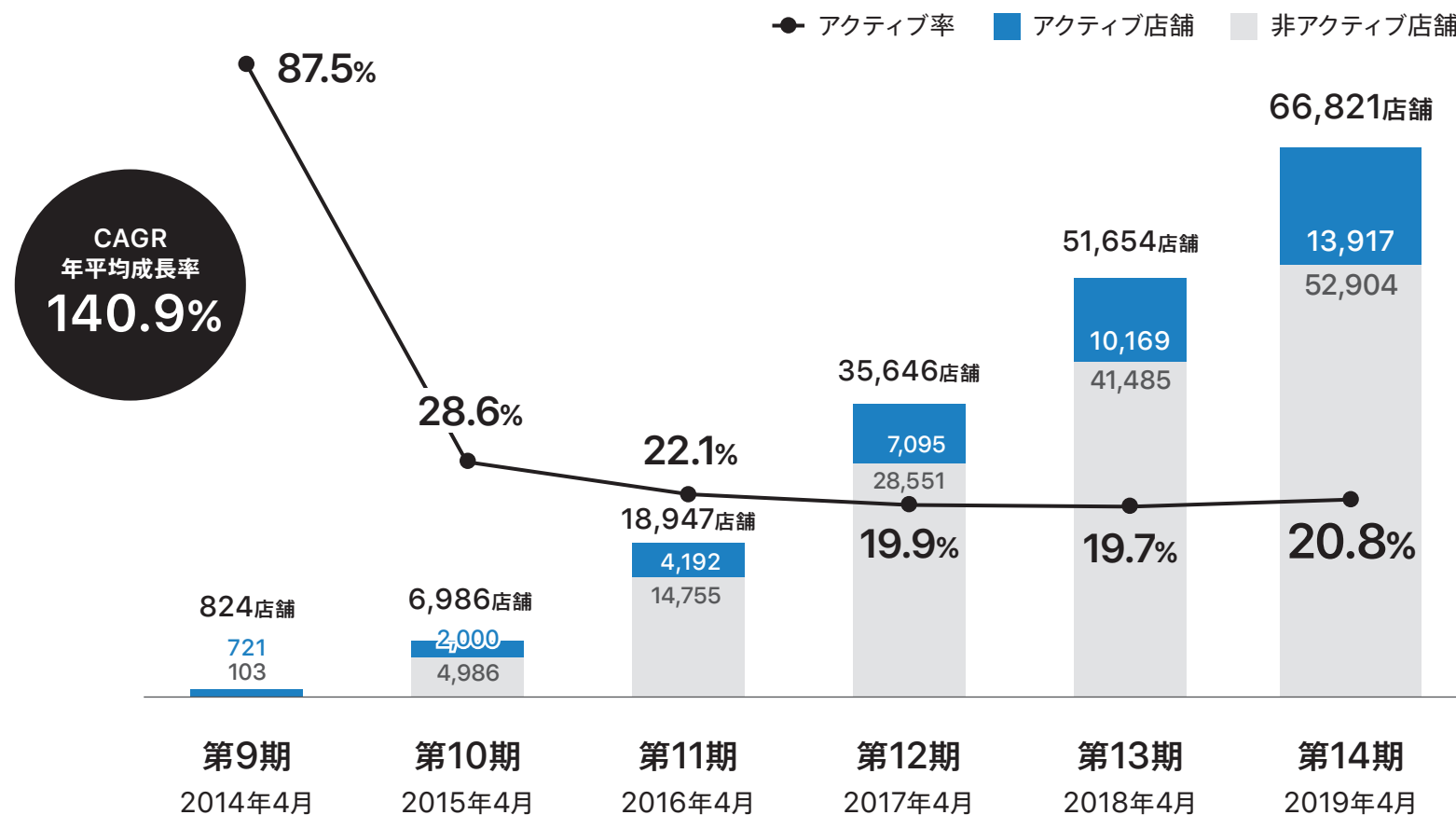
登録商品点数の推移

商品点数が1,800万点を突破



店舗数とアクティブ率

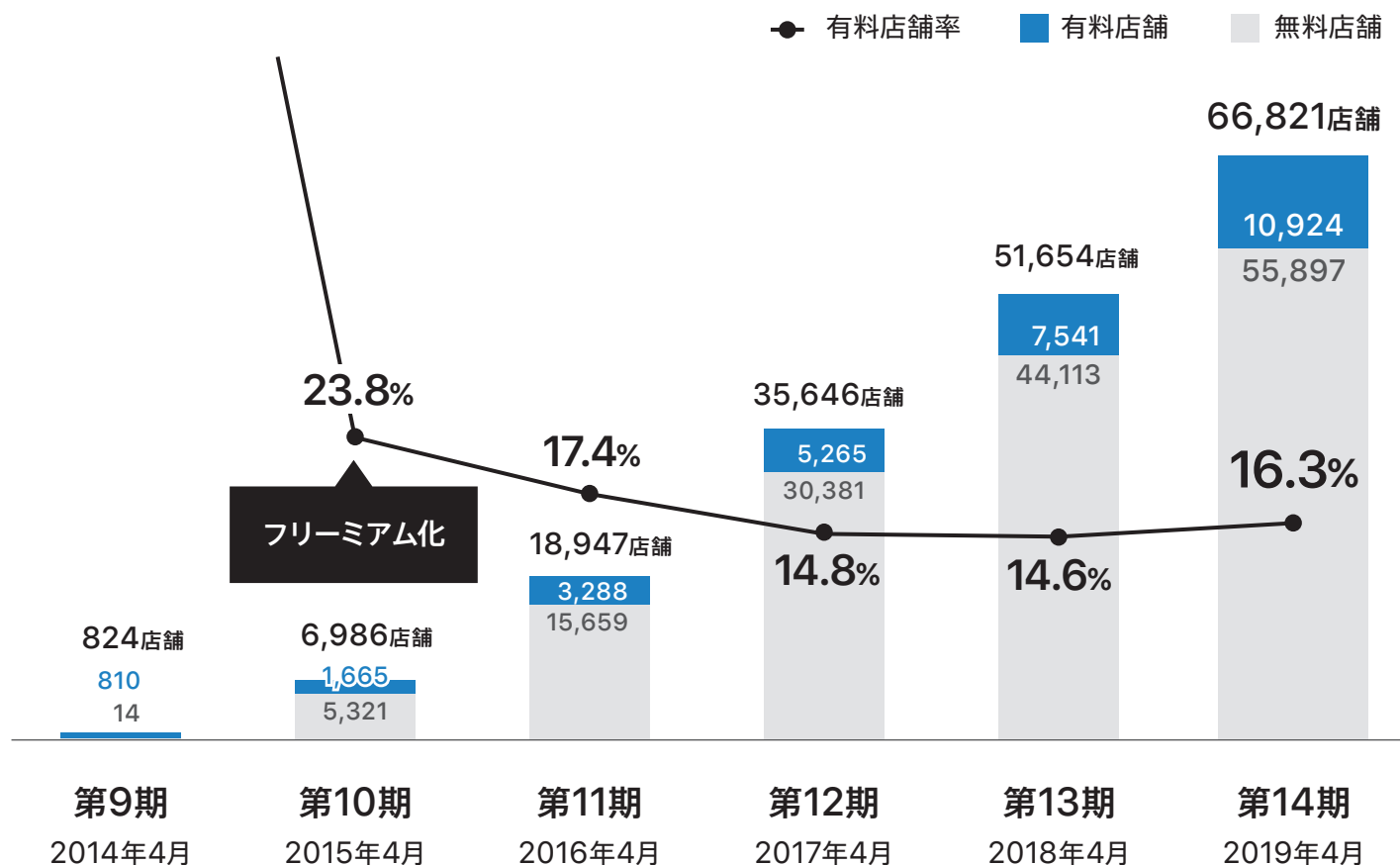
カスタマーサポートの充実やアップデート等、顧客満足度の向上によりアクティブ店舗率が上昇



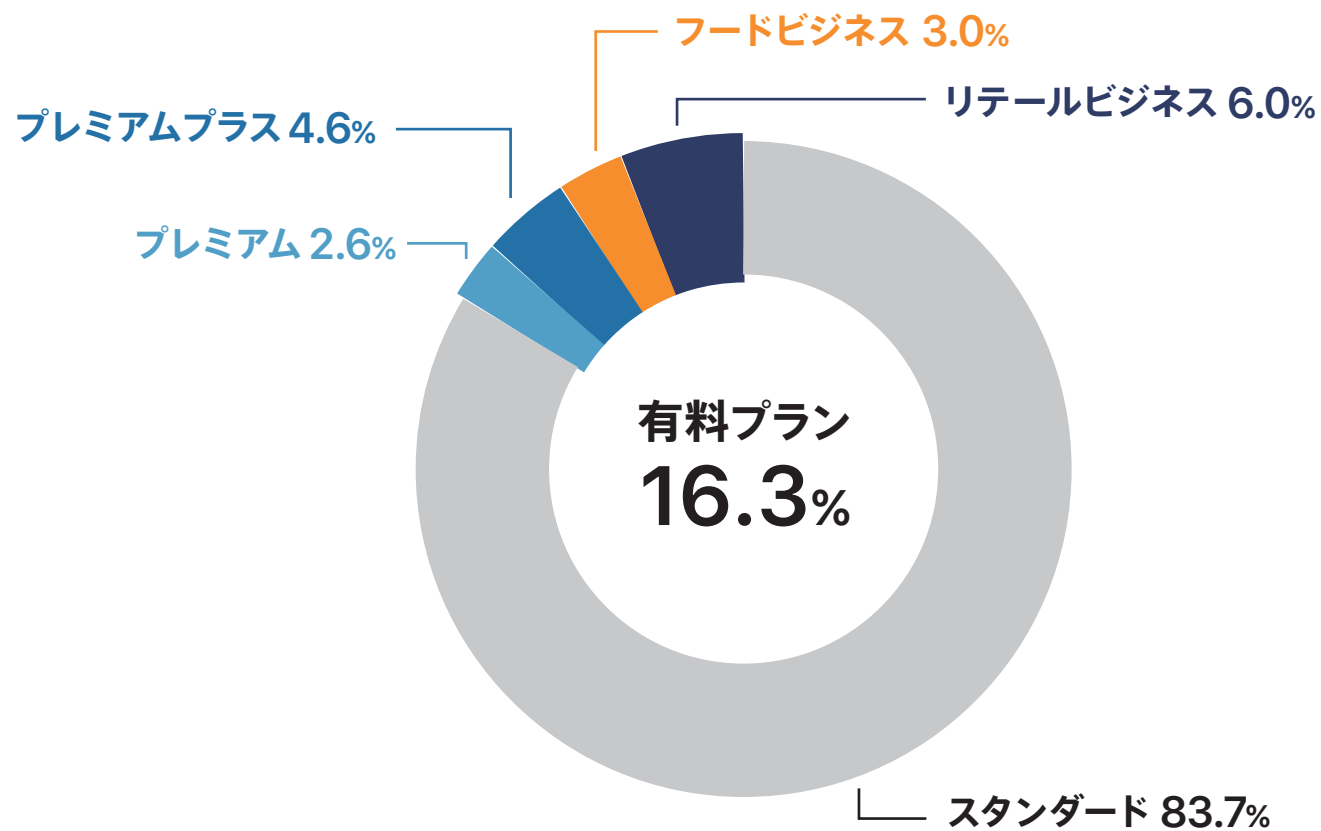
アクティブ店舗：当月の取引データが存在する店舗

店舗数と有料店舗数の推移

有料店舗率が前期比1.7%増加。2015年のフリーミアム化以降初めての上昇



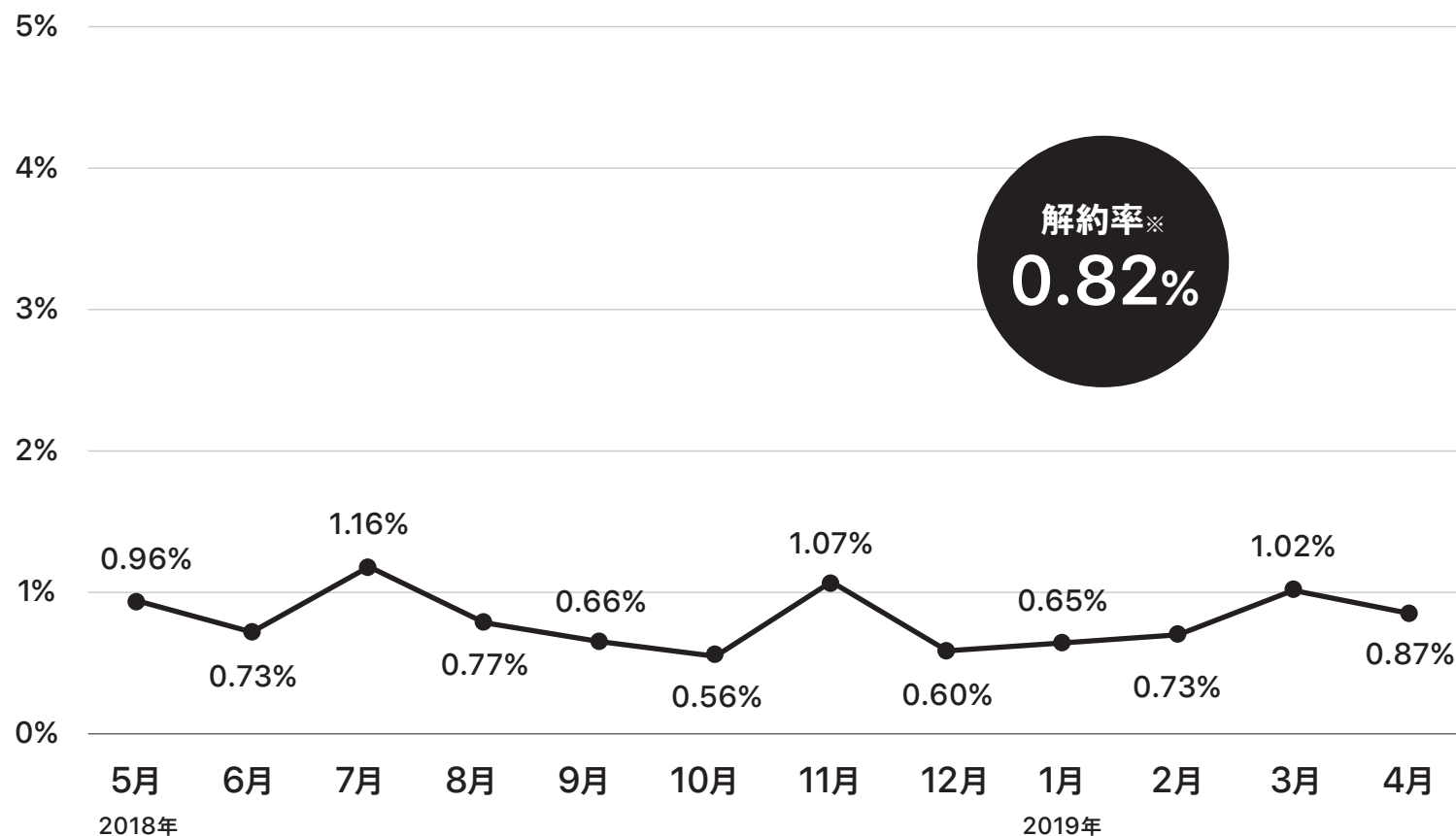
※2015年4月期にフリーミアム化を実施。2014年4月期の有料化率は98.3%です。



※スタンダードプランをご利用中で、オプション機能の利用による課金はカウントしていません。

解約率の推移

低い解約率がサービス品質を証明。14期も安定して低い解約率を維持。



※ 14期 (18/5～19/4) の MRR チャーンレート (既存顧客の月額利用料に占める解約により減少した月額利用料の割合)

中小企業向け業務システムへの取り組み

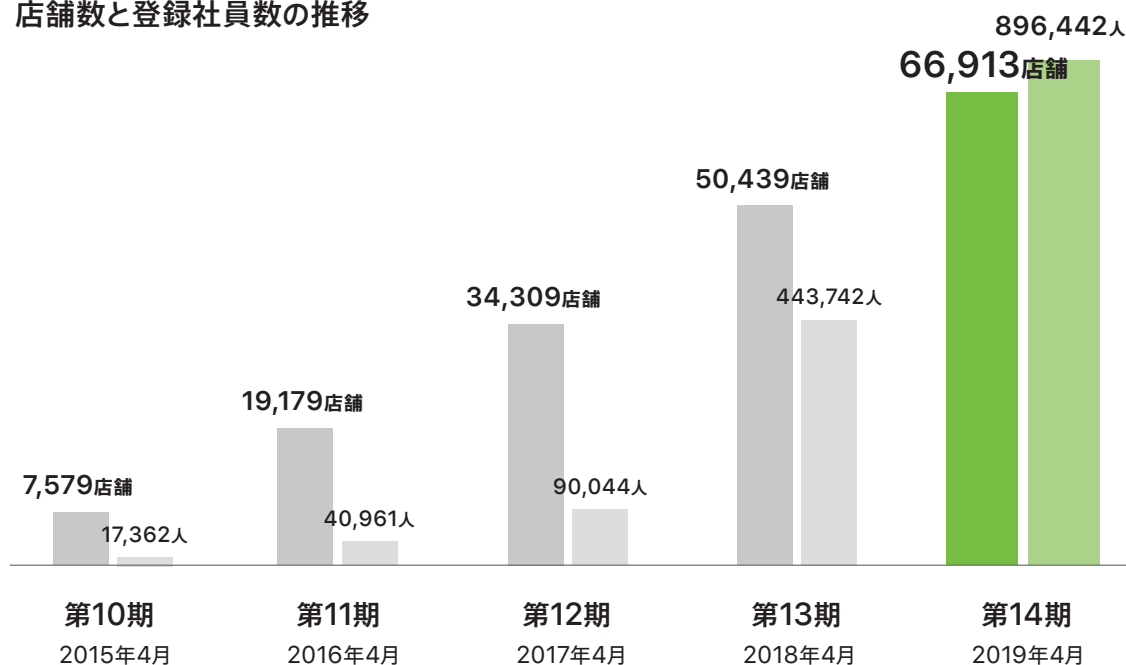
働き方改革などの社会的背景により、HR系サービス「スマレジ・タイムカード」が好調
顧客単価の向上だけでなく、新規顧客の開拓にも貢献



勤怠管理の枠を超えた、 これからの勤怠管理サービス

簡単に給与計算ができる勤怠管理システム。
休暇管理、シフト管理、日報、プロジェクト
管理などの機能をはじめ、各種保険や税計
算、複雑な賃金体系にも対応しています。

店舗数と登録社員数の推移



2020年4月期 業績の見通し

BUSINESS PLAN FOR FY2020

- レジ業界において**モバイルPOSレジのシェアが伸長**、消費税増税に伴う軽減税率対策補助金が終了しても持続的な成長が見込める
- 売上高は第2四半期11億54百万円 (**前期比131.9%**)、通期25億円 (**前期比126.5%**) と高い成長率の継続を見込む
- 営業利益は第2四半期2億11百万円 (**前期比119.7%**)、通期4億89百万円 (**前期比113.4%**) を見込む
- 上場による信頼性向上等により、**大型案件の受注も増加**
- 上場時調達資金の活用により、スマレジ4への投資で**営業利益の成長は、やや鈍化するが、将来への投資フェーズであり今後のさらなる成長に繋げる**

20年4月期 通期業績ハイライト (計画)

2020年4月期 業績の見通し

34

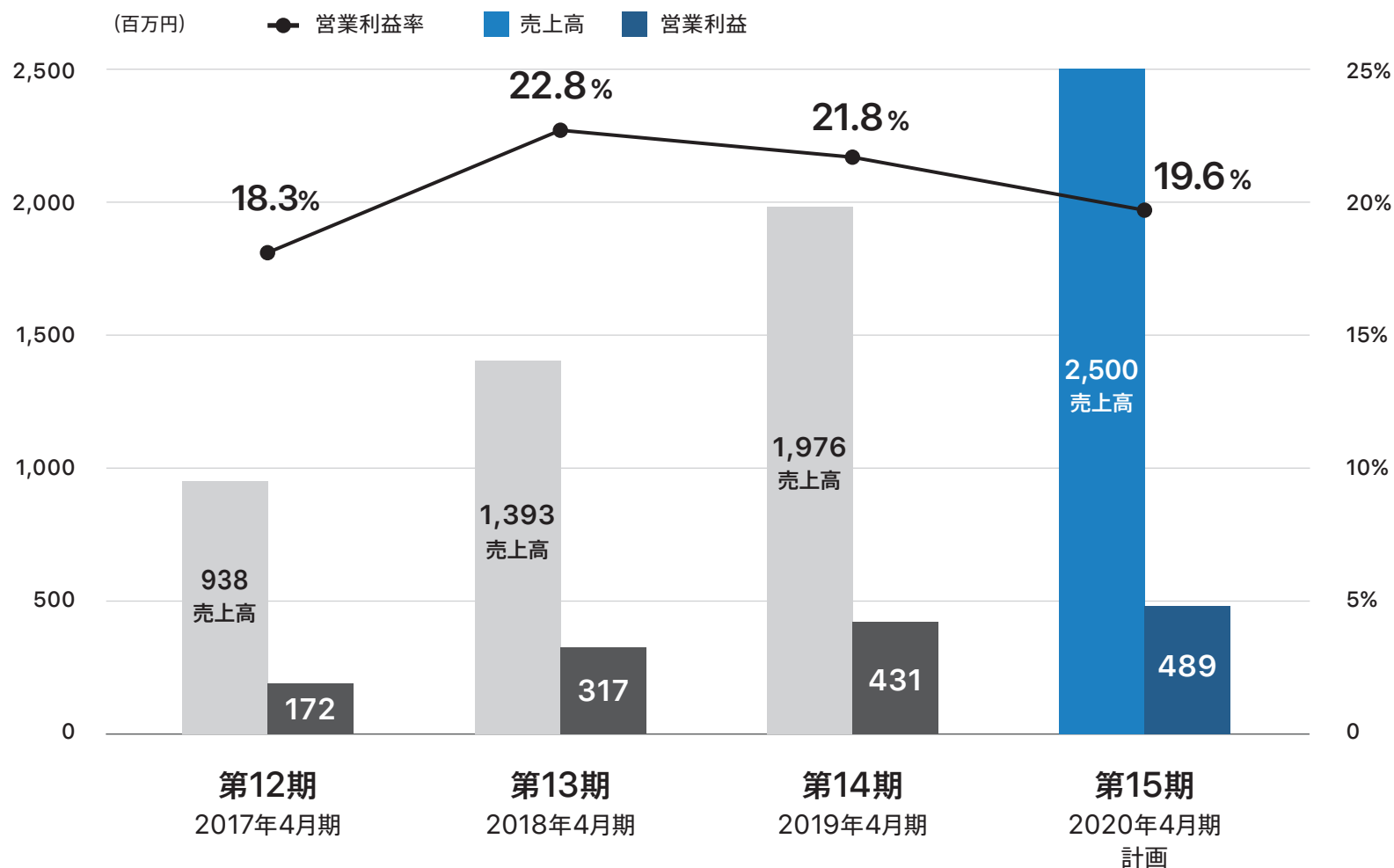
(百万円)	2019年4月期		2020年4月期			
	2Q	4Q	2Q		4Q	
	実績	実績	計画	前期比	計画	前期比
売上高	875	1,976	1,154	131.9%	2,500	126.5%
営業利益	176	431	211	119.7%	489	113.4%
経常利益	176	408	211	119.9%	489	119.8%
当期純利益	124	293	164	132.3%	368	125.7%

売上・営業利益・営業利益率の推移（計画）

2020年4月期 業績の見通し

35

広告費や採用強化、バージョンアップによるサービス強化等、上場時調達資金の活用。
販管費の増加により、一時的に営業利益率が低下する見込み

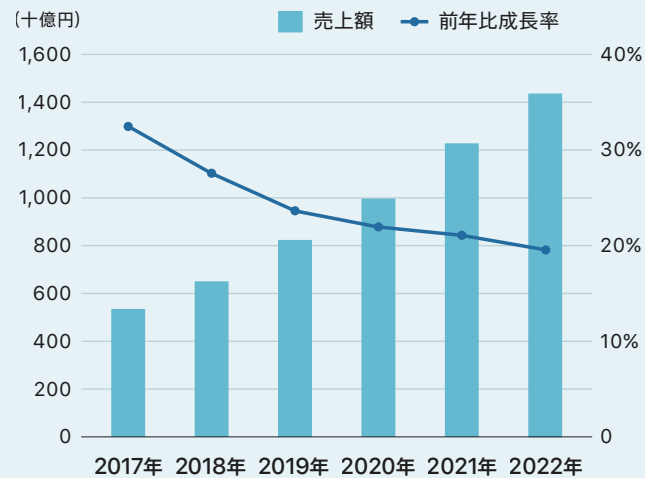


今後の展望

MEDIUM TERM PLAN

SaaS含むパブリッククラウド市場は、今後も継続して成長 POSレジのクラウド化を率先し、業界を牽引する

国内パブリッククラウドサービス市場売上高予測



成長を続ける
クラウド市場

マーケティング
営業活動

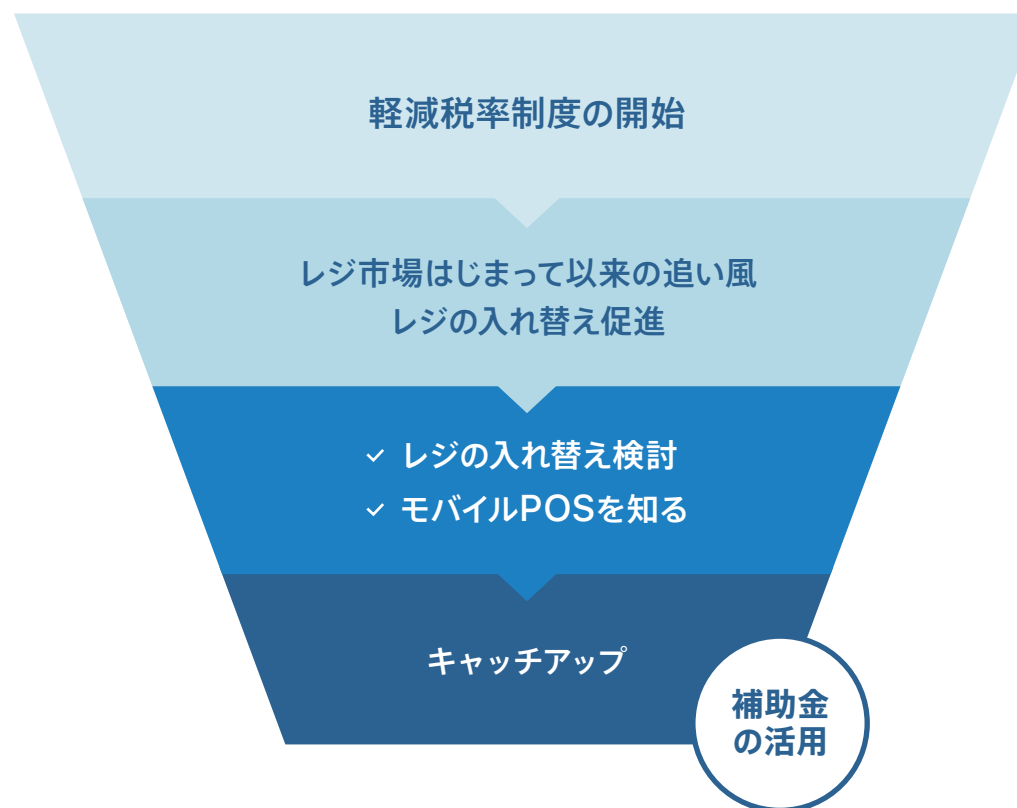
クラウドへ
移行需要の
取り込み

データ参照：国内パブリッククラウドサービス市場予測、2017年～2022年（IDC Japan, 10/2018）

軽減税率対応の促進

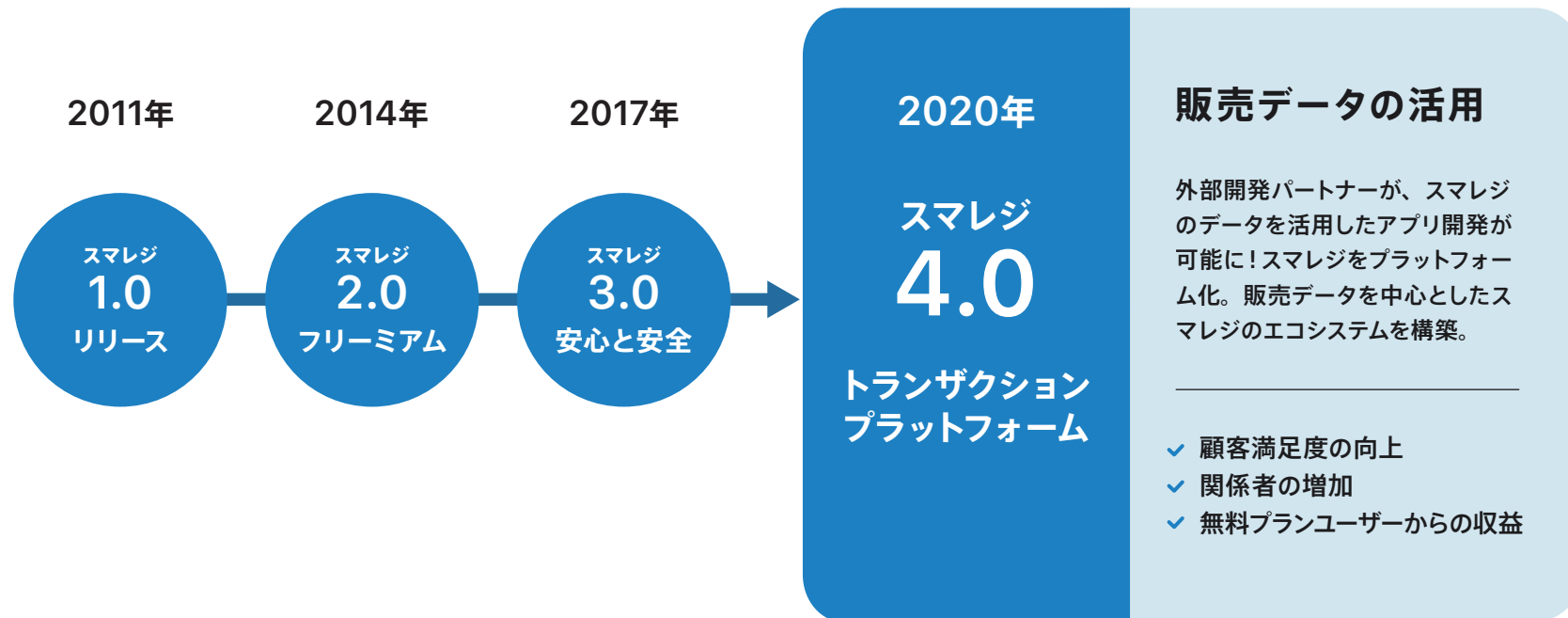
レジ市場始まって以来のレジ入れ替え促進運動が継続中

2019年10月の消費増税が延期になったとしても、軽減税率対応需要は継続する
レジ入れ替えを検討するキッカケをしっかりとフォローしていきたい



スマレジのバージョンアップ

顧客満足度の向上と陳腐化防止により定期的な大幅アップデートを実施
蓄積される販売データを中心にスマレジをプラットフォーム化



本資料に記載されている事業計画、業績予測などの将来の見通しに関しては、現時点で当社が入手可能な情報に基づき当社が合理的であると判断したものです。これら将来の見通しは、市況や政治・経済状況など様々な不確実性を含むものであり、実際の業績とは異なる場合があります。

本資料は、当社株式の購入や売却等の投資勧誘を目的とするものではありません。投資は、ご自身の判断のもと、ご自身の責任において行なっていただくようお願いいたします。

FY2019

2018.5 ~ 2019.4

第14期 決算説明会資料

株式会社スマレジ